

2018年度
事業報告書

2018年4月 1日から
2019年3月31日まで

公益財団法人 国際文化会館

| 項目 | 頁 |
|----------------|----|
| I. 組織体制 | 1 |
| II. 募金活動 | 3 |
| III. 総務関係事項 | 4 |
| IV. 施設管理 | 4 |
| V. 会員関係 | 5 |
| VI. プログラム活動 | 9 |
| VII. 国際文化会館の運営 | 36 |

I. 組織体制

A. 評議員会・理事会

2018年度中に開催された評議員会・理事会は、以下の通りである。

| | |
|--------|---------------------|
| 定時評議員会 | 2018年6月19日開催 |
| 臨時評議員会 | 2018年11月28日開催（書面表決） |
| 第1回理事会 | 2018年5月31日開催 |
| 第2回理事会 | 2018年6月19日開催 |
| 第3回理事会 | 2018年10月25日開催 |
| 第4回理事会 | 2019年3月14日開催 |

B. 評議員・理事・監事等

2018年度中の評議員・理事・監事等の異動は、以下の通りである。

【評議員】

<6月19日付>

| | | |
|------------|-----------|-------|
| (新任) 道傳愛子 | 五百旗頭 真 | 川邊健太郎 |
| (退任) 小林いずみ | 近藤正晃ジェームス | 渡辺 靖 |

【理 事】

<6月19日付>

| | | |
|------------|--------|-----------|
| (重任) 明石 康 | 番場孝司 | 千野境子 |
| 後藤乾一 | 小林正美 | 国分良成 |
| 小松諄悦 | 久保文明 | |
| (新任) 伊藤実佐子 | 小林いずみ | 近藤正晃ジェームス |
| 渡辺 靖 | | |
| (退任) 降籬高司郎 | 五百旗頭 真 | |

<12月31日付>

(退任) 明石 康

【代表理事】

<6月19日付>

(重任) 明石 康 (理事長)
(重任) 番場孝司 (常務理事)

<12月31日付>

(退任) 明石 康 (理事長)

<2019年1月1日付>

(新任) 近藤正晃ジェームス (理事長)

【名誉顧問】

<2019年1月1日付>

(新任) 明石 康

2018年度末現在の評議員・理事・監事等の人数は、評議員19名、理事13名、監事2名、名誉顧問1名である。

C. 委員会

2018年度中に開催された委員会は、以下の通りである。

【役員等候補者選出委員会】

第1回 2018年4月3日開催

第2回 2018年5月8日開催

D. 職員

2018年度中2名が退職し、新たに3名を採用した。年度末現在の職員の人数は、有期職員を含め24名（男性5名、女性19名）である。

II. 募金活動

A. 助成金・寄付金

2018 年度中に領収した各種助成金・寄付金の主たるものは、以下の通りである。(千円未満四捨五入)

| | |
|--------------------|----------|
| (独)国際交流基金 | 19,344千円 |
| 日米国際金融シンポジウム | 14,000 |
| (一財)MRAハウス | 7,000 |
| 日米友好基金 | 5,738 |
| 朝河博士没後70周年記念シンポジウム | 4,000 |
| (公財)渥美国際交流財団 | 3,424 |
| (一社)アジア・ソサエティ | 3,332 |
| 三菱UFJリサーチ&コンサルティング | 3,210 |
| シャハニアソシエイツ(株) | 2,584 |
| ANAホールディングス(株) | 2,080 |
| (公財)渋沢栄一記念財団 | 1,000 |
| (公財)トヨタ財団 | 1,000 |
| (公財)オリックス宮内財団 | 500 |
| (株)森ビル | 500 |
| (一社)霞会館 | 300 |
| 清水建設(株) | 300 |
| (株)天童木工 | 300 |
| 入会時寄付金 | 20,975 |
| 諸寄附 | 203,136 |

III. 総務関係事項

A. 六本木5丁目西地区市街地再開発準備組合

地区住民・地権者の協議機関である「六本木5丁目西地区市街地再開発準備組合」(2008年設立)に会館も参加し、この地区のより良い街づくりについて話し合っている。2014年7月に基本計画改良案が策定され、これに基づき事業が進められていたが、震災復興やオリンピック特需などによる建設コスト増加等の影響により、引き続き施設計画の変更が検討されており、2019年前半に向けて最終的な基本計画案の策定が進められている。

IV. 施設管理

館内の共用スペースで使用しているガスを利用した空調機(GHP)が、設置してから13年が経過し、経年劣化による不具合が発生し始めたため、予防処置としてコンプレッサー等の主要部品の交換を実施した。

また、館内で使用しているパソコンが、前回設置してから6年経過して、OSのサポート期限も終了することから、2019年1月27日の定期点検時(全館停電)にパソコン全台の更新を行った。

V. 会員関係

A. 個人会員

2018年度は、新規入会が207名（日本人156名、日本人以外51名）あり、昨年度比31名増加（日本人19名、日本人以外12名）した。退会届提出、死亡、会費滞納による退会者は149名（日本人99名、日本人以外50名）で、昨年度比39名増加（日本人24名、日本人以外15名）した。これにより全体として58名の会員数の増加（日本人58名、日本人以外0名）となり、2019年3月31日現在、日本人会員2,176名と日本人以外41カ国（地域）の会員841名の合計は3,017名となった。

| | 日本人 | 日本人以外 | 小計 | 合計 |
|------|-----------|----------|----------|------------|
| 新入会員 | 156 (75%) | 51 (25%) | | 207 (100%) |
| 退会 | 47 | 18 | 65 (44%) | |
| 死亡 | 44 | 17 | 61 (41%) | |
| 会費滞納 | 8 | 15 | 23 (15%) | |
| 小計 | 99 (66%) | 50 (34%) | | 149 (100%) |
| 国籍変更 | +1 | -1 | | |
| 増減 | +58 | 0 | | +58 |

B. 法人会員

2018年度の新規入会は7法人8口で、昨年度比2法人1口増となった。一方10法人11口の退会及び減口があり、昨年度比0法人3口減となった。これにより法人会員数は昨年度比3法人3口減少し、2019年3月31日現在、合計167法人194口となった。

| | 法人数 | 口数 | 昨年度比 | |
|-------|-----|-----|------|-------|
| 4口 法人 | 2 | 8 | +1 | (+4口) |
| 3口 " | 4 | 12 | -1 | (-3口) |
| 2口 " | 13 | 26 | -1 | (-2口) |
| 1口 " | 148 | 148 | -2 | (-2口) |
| 計 | 167 | 194 | -3 | (-3口) |

C. 図書会員

新規入会者は30名、退会者は23名で、2019年3月31日現在、図書会員は17カ国131名となった。

D. 総収入

2018年度の図書会費を含む会費収入は、¥68,056,088で、昨年度比¥3,570,806増加し、また入会時寄付金収入は¥20,975,000で、昨年度比¥2,025,000増加した。法人会費収入は¥32,932,325で、昨年度比¥1,237,599減少した。

| | 2018年度実績 | 2018年度予算 | 2017年度実績 |
|--------|---------------------|---------------------|---------------------|
| 個人会員費 | ¥68,056,088 | ¥65,000,000 | ¥64,485,282 |
| 入会時寄付金 | 20,975,000 | 17,000,000 | 18,950,000 |
| 法人会員費 | 32,932,325 | 35,000,000 | 34,169,924 |
| 合計 | <u>¥121,963,413</u> | <u>¥117,000,000</u> | <u>¥117,605,206</u> |

E. 会員晩餐会

2018年度は12月6日に開催し、特別ゲストとして東海大学副学長、全日本柔道連盟会長、日本オリンピック委員会強化本部長である山下泰裕氏をお迎えし、山下氏自らがミッションの一つとして掲げる「柔道・友情・平和」について、お写真をご披露いただきながらお話しいただいた。山下氏の立ち上げられたNPO法人柔道教育ソリダリティーの活動は多岐に亘り、今後も「柔道の心、和の心、日本の心を世界に！」と、柔道を通じた国際交流・国際貢献を、日本の多くの柔道家と関係者を巻き込んで、柔道に限らずスポーツ界の人達にも活動を広げていきたいとの抱負を語られ、当日は約80名の会員ならびにご同伴の方々が集い、交歓のひとときをお楽しみいただいた。

F. 新入会員懇親会

2018年度の新入会員懇親会は、2018年1月～2019年1月の期間に新規入会された会員を対象に、6月12日、10月16日および2019年3月18日の計3回開催された。それぞれ新入会員27名と同伴者8名の計35名、新入会員25名と同伴者13名の計38名及び、新入会員15名と同伴者4名の計19名が出席した。

個人会員国籍別統計

(2019年3月31日現在)

| 国籍／地域 | 計 | | | | | 計 2019年 3月31日 |
|----------|----------------|-------------|-----------|-----------|-------------|---------------------|
| | 2018年 3月31日 | 新入会員 (+) | 退会 (-) | 死亡 (-) | 会費滞納 (-) | |
| オーストラリア | 29 | 4 | 0 | 0 | 1 | 32 |
| オーストリア | 4 | 1 | 1 | 0 | 0 | 4 |
| バングラデシュ | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| ベルギー | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| ブラジル | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| カナダ | 36 | 0 | 0 | 0 | 1 | 36 |
| 中華人民共和国 | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| チェコ | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| デンマーク | 3 | 0 | 2 | 0 | 0 | 1 |
| エクアドル | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| エリトリア | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| フィンランド | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| フランス | 12 | 0 | 0 | 0 | 0 | 12 |
| ドイツ | 29 | 1 | 3 | 1 | 0 | 26 |
| 香港 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| ハンガリー | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| インド | 7 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 |
| インドネシア | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| アイルランド | 5 | 0 | 1 | 0 | 0 | 4 |
| イスラエル | 2 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| イタリア | 6 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6 |
| 日本 | 2,118 | 157 | 47 | 44 | 8 | 2,176 * |
| ケニア | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 韓国 | 22 | 3 | 0 | 1 | 1 | 23 |
| マレーシア | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| ネパール | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| オランダ | 7 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 |
| ニュージーランド | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| フィリピン | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| ポルトガル | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| ロシア | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| シンガポール | 5 | 1 | 0 | 0 | 0 | 6 |
| スペイン | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| スリランカ | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| スウェーデン | 10 | 0 | 2 | 0 | 0 | 8 |
| スイス | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 |
| 台湾 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| タイ | 10 | 0 | 0 | 0 | 0 | 10 |
| トルコ | 4 | 0 | 0 | 1 | 0 | 3 |
| イギリス | 53 | 4 | 1 | 2 | 3 | 51 |
| アメリカ | 553 | 34 | 8 | 11 | 9 | 558 * |
| ベトナム | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 日本人 | 2,118 | 157 | 47 | 44 | 8 | 2,176 |
| 日本人以外 | 841 | 50 | 18 | 17 | 15 | 841 |
| 合計 | 2,959 | 207 | 65 | 61 | 23 | 3,017 |

*国籍変更:USA→日本(1名/2018年度入会者)

法人会員分布
(2019年3月31日現在)

| 県／国 | 4口 | 3口 | 2口 | 1口 | 法人数 | 口数 |
|------|----|----|----|-----|-----|-----|
| 千葉 | | | 1 | 0 | 1 | 2 |
| 東京 | 2 | 3 | 11 | 125 | 141 | 164 |
| 神奈川 | | | | 1 | 1 | 1 |
| 富山 | | | | 1 | 1 | 1 |
| 石川 | | | | 1 | 1 | 1 |
| 滋賀 | | | | 1 | 1 | 1 |
| 愛知 | | | | 1 | 1 | 1 |
| 大阪 | | 1 | 1 | 2 | 4 | 7 |
| 岡山 | | | | 1 | 1 | 1 |
| 広島 | | | | 1 | 1 | 1 |
| 福岡 | | | | 1 | 1 | 1 |
| 茨城 | | | | 1 | 1 | 1 |
| ドイツ | | | | 2 | 2 | 2 |
| オランダ | | | | 1 | 1 | 1 |
| イギリス | | | | 1 | 1 | 1 |
| アメリカ | | | | 8 | 8 | 8 |
| 合計 | | | | | | |
| 法人数 | 2 | 4 | 13 | 148 | 167 | |
| 口数 | 8 | 12 | 26 | 148 | | 194 |

VI. プログラム活動

I. 知的対話プログラム

1. アジア・リーダーシップ・フェロー・プログラム (ALFP)

1996年度以来、国際交流基金との共催事業として実施してきたアジア・リーダーシップ・フェロー・プログラム (ALFP) は、2018年度で23年目を迎えた。ALFPでは、毎年アジア各国から7～8名のパブリック・インテレクチュアルを選抜し、フェローとして2カ月間日本に招聘している。滞日中フェローたちは、国際文化会館で寝食を共にしながら、アジア地域や世界に共通する諸課題について議論する。こうした知的対話を通じてALFPは、トランスナショナルな理解と協力を促進し、アジアのパブリック・インテレクチュアルおよび日本のカウンターパートとの緊密なネットワーク構築を目指している。2018年度は、8名のフェローを招聘した。現在までに、学界、ジャーナリズム、出版、法律、教育、芸術、NGO（非政府組織）、NPO（非営利組織）など、さまざまな専門領域で活躍するフェロー139名が選ばれている。

2018年度は、「Imagining Plural Asias: How Can We Enrich Interrelationships across Borders?」という共通テーマのもと、フェローたちは9月10日から11月2日まで主として国際文化会館に滞在し、日本を拠点とする学者、ジャーナリスト、芸術家、NGO/NPOリーダーたちとのワークショップ、リソース・セミナー、フィールド・トリップに参加した。プログラムの最後には公開フォーラムを開催し、共同作業の成果を交えながらそれぞれの専門や国の現状について発表した。

2018年度に来日した8名のフェローとプログラム概要は、以下の通りである。

サムラート・チョードリー／作家、フリージャーナリスト（インド）

アジズ・アリ・ダード／アガ・カーン地域支援プログラム（AKRSP）知識管理・コミュニケーションスペシャリスト（パキスタン）

アスミン・フランシスカ／アトマ・ジャヤ・カソリック大学法学部 上級講師
（インドネシア）

リディア・ルボン／ドキュメンタリー映像作家・プロデューサー（フリーランス）
（マレーシア）

アロンゴット・マイドゥアン／科学技術教育振興研究所学術担当官、ジュットプラ
カーイ（Judprakai）紙芸術文化ジャーナリスト（タイ）

澤西 三貴子／国連民主主義基金（UNDEF）次長（日本）

スン・ドン 孫冬／詩人、南京財経大学国際協力・交流室副室長・教授（中国）

シロット・ウオン／SeeChange International Cambodia キャリア・アドバイザー
（カンボジア）



サムラート・チョードリー



アジズ・アリ・ダード



アスミン・フランシスカ



リディア・ルボン



アロンゴット・マイドゥア
ン



澤西 三貴子



スン・ドン



シロット・ウオン

[ワークショップ]

フェローによるカントリー・レポート（1）（9月11日）

フェローによるカントリー・レポート（2）（9月12日）

[ディスカッション・ペーパー発表会議]（9月14日）

フェローが、自身の専門分野や出身国の現状について発表し、日本の有識者と議論を
交わす会議を会館で開催した。参加者は、以下の通りである。

阿古 智子／東京大学大学院准教授

今田 克司／日本NPOセンター副代表理事、2013年度ALFPフェロー

大橋 正明／聖心女子大学教授、特定非営利活動法人国際協力NGOセンター 理事、
1999年度ALFPフェロー

小川 玲子／千葉大学准教授

水野 孝昭／神田外語大学教授

[リソース・セミナー]

- ▶ 南アジア・コアセミナー「グローバル化するインドとアジアにおける構造変容：持続可能、包括的、平和的な開発」田辺 明生／東京大学教授（9月18日）
- ▶ 北東アジア・コアセミナー「負の歴史の記憶と忘却」阿古 智子／東京大学大学院准教授（9月19日）
- ▶ 東南アジア・コアセミナー「アジアのデモクラシーが直面する問題：ポピュリズムと道徳政治の台頭」日下 渉／名古屋大学准教授（9月20日）
- ▶ 「安定と失望：2010年代の日本政治における『3：2：5』の構図」小熊 英二／慶應義塾大学教授（10月2日）
- ▶ 「アジアのジャーナリズム～第一線で闘うジャーナリストに聞く～」クンダ・ディクシット／Nepali Times紙編集者・発行人（2006年度ALFPフェロー）、サバ・ナクヴィ／フリージャーナリスト（2013年度ALFPフェロー）、コン・リッディ／バンコクポスト紙編集者（2010年度ALFPフェロー）による講演、およびアジア太平洋地域のリーダーシップ・プログラム・フェローとのディスカッション（10月14日）
- ▶ 鍊仙会にて日本の伝統芸能およびアジア諸国のアーティストとの協働に関するセミナー 清水 寛二／能楽師（10月15日）
- ▶ 「分野をまたぐドキュメンタリープロジェクト」岡原 功祐／写真家（10月17日）
- ▶ 「多様なアジアを描く～持続的・包括的社会を築くには～」マリオ・ロペズ／京都大学准教授（10月19日）

[東北フィールド・トリップ]（9月25～29日）

地域活性化に向けた取り組み

- ▶ 高齢化するコミュニティにおける地方創生について、丑田 俊輔氏（ハバタク株式会社代表取締役）によるセミナー
- ▶ グローバル時代における日本と東北の農業について、多田 克彦氏（多田自然農場代表取締役社長）によるセミナー、および岩手県遠野市の農業関係者や起業家との懇親会

環境の持続可能性と文化の保全について

- ▶ マタギ文化の保存や野生動物の保護管理について、マタギとの対話および滝歩き
- ▶ NPO「森は海の恋人」訪問、畠山 信氏（NPO森は海の恋人副理事長）による牡蠣養殖場の案内、および包括的な環境保全への取り組みについて横山 勝英氏（同理事）からのお話

震災復興に向けた活動

- ▶ 「風の電話」に関する説明、および震災と記憶について、佐々木 格氏（ベルガーディア鯨山）との対話
- ▶ 大槌町文化交流センターにて、震災の伝承に関するブリーフィング
- ▶ 平野 公三氏（大槌町長）への表敬訪問および復興に関するブリーフィング
- ▶ 震災後の若者のエンパワメントについて、南 景元氏（大槌町スクールソーシャルワーカー）との対話
- ▶ コミュニティ復興における郷土芸能の役割について、東梅 英夫氏（臼澤鹿子踊保存会会長）や保存会メンバーとの対話、および鹿子踊見学
- ▶ せんだいメディアテークにて、市民参加型の映像記録の意義に関する説明

【その他の訪問先】

- ▶ NHK
- ▶ 社会福祉法人藤雪会

【リトリート合宿】（10月23～24日）

公開フォーラムに向けて今年度のALFPの総合テーマ「Imagining Plural Asias: How Can We Enrich Interrelationships across Borders?」について議論を重ねる合宿会議を、山梨県の清里で開催した。

【公開フォーラム】（10月31日）

約2カ月間にわたる日本での共同作業の集大成として、国際文化会館にて公開フォーラムを開催した。フォーラムでは、総合テーマ「Imagining Plural Asias: How Can We Enrich Interrelationships across Borders?」をもとに、フェローたちが対話の成果を交えながら、それぞれの専門や国の現状について発表した。第1部・2部ともに、水野孝昭氏（神田外語大学教授）が司会進行を務め、会場から多くのコメントや質問が寄せられた。

さらに、国際交流基金アジアセンターとのALFP共催が2019年度を以て終了することを受け、事業の成果を広く社会に周知・還元することを目的に、本年度から元フェローを登壇者とした講演会の開催や、元フェローを寄稿者としたeマガジンの発行を行っている。

2018年度は、下記の2回の講演会を実施した。また「民主主義」、「気候変動」、「芸術と社会」、「文化とアイデンティティ」をテーマに、eマガジンを計4回発行した。

アジアのジャーナリズム～第一線で闘うジャーナリストに聞く～（10月14日）*

クンダ・ディクシット／Nepali Times紙編集者・発行人、2006年度ALFPフェロー

サバ・ナクヴィ／フリージャーナリスト、2013年度ALFPフェロー

コン・リッディ／バンコクポスト紙編集者、2010年度ALFPフェロー

司会：水野 孝昭（神田外語大学教授）

※アジア・パシフィック・ヤング・リーダーズ・プログラム（APYLP）の第1回ジョイント・セッションを兼ねて実施。



クンダ・ディクシット



サバ・ナクヴィ



コン・リッディ



水野 孝昭

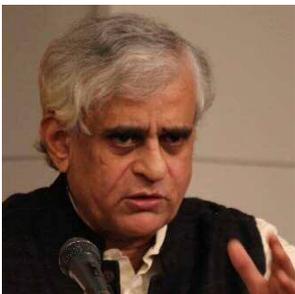
アジアにおける分断と格差～社会をつなぐリーダーに聞く～（2019年2月19日）

パラグミ・サイナート／フリージャーナリスト、2003年度ALFPフェロー

サリー・アオングソムワン／消費者のための財団事務局長、2000年度ALFPフェロー

チト・ガスコン／フィリピン人権委員会議長、2008年度ALFPフェロー

司会：今田 克司／日本NPOセンター副代表理事、2013年度ALFPフェロー



パラグミ・サイナート



サリー・アオングソムワン



チト・ガスコン



今田 克司

2. 牛場記念フェローシップ

現代の複雑化した国際情勢を読み解き、時代の一步先を見据える世界的なオピニオン・リーダーを招聘し、グローバル社会が直面する諸課題について意見交換を行うことにより、日本と諸外国との相互理解の増進を試みるプログラムである。滞日中のフェローは、公開講演会と専門家を中心としたセミナー、ワークショップなどに講師として参加するほか、各フェローの希望に応じて非公式な対談やディスカッションの機会を設定する。なお本フェローシップは、牛場信彦記念財団の残余財産の寄贈を受けて実施している。

2018年度は、招聘するフェローを選出するべく、4名の有識者に運営委員を依頼し、また、国内外の関係者にフェローの推薦依頼を行った。その後、選考委員会を開催し、今後招聘するフェロー3名を選出したが、招聘に至らなかったため、2019年度に推薦依頼および選出方法を見直し、新たにフェローの選出を試みる。

3. 日印対話プログラム

日印平和条約の締結から60周年を迎えた2012年に、日印両国間に民間レベルの「対話の場」を創出するために立ち上げたプログラムである。本プログラムは、社会のさまざまな課題の解決に向けて、現状を打破するための新しい価値やアイデアを提案し、インド国内で影響力のある人物を、政治、経済、文化、学術、科学など幅広い分野から年間1名、1週間程度日本に招聘する。招聘フェローは、講演会、関連機関への訪問、地方視察などを通して日本の関係者と意見交換やネットワーク構築を行う。本事業は、2016年度まで国際交流基金と、2017年度よりシャハニ・アソシエイツ株式会社と共催し、これまでに5名のフェローを招聘している。

2018年度は、インドを代表する法人顧問弁護士ジア・モディ氏を招聘した。モディ氏は、2019年3月2日から3月8日まで来日し、滞在中は国際文化会館での講演のほか、都内のビジネス・スクールや商工会議所を訪問し講義などを行った。

インドのさらなる可能性—ビジネス、法律、女性の視点から（2019年3月7日）

ジア・モディ/AZB & Partners 共同設立者

コメンテーター：山田 剛/日本経済新聞社シニア・エディター



ジア・モディ

4. 日米国際金融シンポジウム

国際文化会館はハーバード・ロースクール国際金融システム・プログラム（PIFS）との共催で、日米国際金融シンポジウムを実施している。本シンポジウムは、毎年日米交互で開催され、日米両国の政府高官、政治家、金融機関幹部、法律家、コンサルタント、研究者、メディア代表者など100名以上が参加し、2日間にわたって国際金融システムの機能と安定化にかかわる問題について討議を行うものである。

第21回シンポジウムは、10月19～21日にワシントンD.C.で開催され、日米から112名が参加、以下の3つのテーマについて討議した。

- トランプ政権の金融規制緩和：国際的金融機関への影響
- 金融テクノロジーと銀行：脅威と機会
- 長期金利の低迷持続：原因と影響

II. 人材育成プログラム

〈教育プログラム〉

1. 新渡戸国際塾（新渡戸リーダーシップ・プログラム）

新渡戸国際塾は、「広い視野と公益の精神をもって社会に貢献できる若手リーダーを育てる」ことを目的に、2008年度から10カ年実施した人材育成プログラムである。本事業は2017年度末（第十期）をもって一区切りを迎えたが、現在世界はますます多様化し複雑化を極め、難題が山積する中で新しい秩序や枠組みが求められていることもあり、より今の時代に合った形で継続することとした。

2018年度は、これまでに培ってきた人的ネットワーク、143名の修了生（新渡戸リーダーシップ・フェロー）から6名に運営委員を委嘱し、2019年度から参加者を募集し実施するプログラムの企画準備期間とした。全10回の企画委員会を実施し、2019年度より、名称を「新渡戸リーダーシップ・プログラム」とし、「自ら未来をデザインし、実現する～変容するボーダーをどう越えるか」をテーマに実施することが決まった。社会的な課題に対し革新的な視点や方法で取り組んでいる40歳以下の方を対象に、6月から12月の週末に実施する。願書、小論文、面接審査を経て選ばれる約10名の参加者は、山梨県清里での研修合宿、宮城県でのスタディツアーを含む全13回の講義に出席、並行して自らが設定した課題の解決に取り組み、一定の基準を満たすと新渡戸リーダーシップ・フェローとして認定される。なお本プログラムは、MRAハウスの助成を受けて準備を行った。

2018年度は、2019年度以降のプログラム立案のみならず、既存のフェローネットワークを強化していく取り組みも引き続き行われた。その中で、「同窓会」、「高校出張講座」、「新渡戸サロン」はフェローの繋がりや結束を強め、社会に対して積極的に貢献していくことを可能にした。

〔同窓会〕

- 新渡戸Day（9月1日）

[高校出張講座]

2018年度同窓会企画委員が、新渡戸国際塾修了後に何か社会のために行動したいという思いからはじまったプロジェクトで、多様な経験をもったキャリア教育人材が不足する地方の高校を訪問し、フェローが高校生に向けて自身の経験をシェアすることでキャリア教育の一端を担うというものである。

- 福島県立小高産業技術高等学校（5月24日、2019年3月15日）
- 愛媛県立八幡浜高等学校（6月26日）

[新渡戸サロン]

フェローの多様な経歴や専門性、ネットワークを活用した勉強会で、おのおのの知見を深め、新渡戸のネットワークを活用することを目的に開催された。2018年度は2回開催し、うち1回は2019年度の新渡戸リーダーシップ・プログラム応募者向けの会合を兼ねて行われた。

- SDGs達成に向けた官民の取り組み（2019年2月24日）
- 経済政策、医療、地方創生・グローバル（2019年3月23日）

また新渡戸国際塾第十期の公開講演をまとめた講義録6『これからの世界を考える人へ』を電子出版した。

〈諸外国団体との連携・協力プログラム〉

1. 日米芸術家交換プログラム（共催：日米友好基金）

米国の芸術家5名（5組）が来日し、3～5カ月間、日本の文化・芸術を研究し、創作活動を行ったり、日本の芸術家と交流を深めたりするプログラムで、日米友好基金（Japan-United States Friendship Commission）が主催し、国際文化会館は来日中のフェローの活動支援を受託している。1978年より実施され、専門スタッフが来日時のオリエンテーションや住居の手配、日本人芸術家や関連団体などへの紹介、情報の提供や通訳など、フェローの活動全般をサポートしている。

2018年度に来日したアーティストは、以下の通りである。

デレク・グロマトスキー／詩人、翻訳家（12月から4カ月間）

フー・ホアン&ラチェリー・ローテム／建築家（5月から4カ月間）

ローレル・ナカニシ／詩人（4月から4カ月間）

ホセ・ナバレテ／振付家（8月から5カ月間）

ジェシー・シュレシンジャー／美術作家（9月から5カ月間）



デレク・グロマトス
キー

フー・ホアン&ラチェリー・
ローテム

ローレル・ナカニシ

ホセ・ナバレテ

ジェシー・シュレシ
ンジャー

また、来日中の米国人芸術家の活動や、彼らと日本人芸術家がコラボレーションする際の発表の場として、「IHJ アーティスト・フォーラム（略称 AF）」（助成：日米友好基金）を不定期に開催している。

2018 年度に開催したアーティスト・フォーラムは、以下の通りである。

【アーティスト・トーク】 わたしも書ける？—子供に伝える詩の魅力（5月17日）

スピーカー：ローレル・ナカニシ

【アーティスト・トーク】『Kyokai』を拓げる—神山 AIR（5月30日）

スピーカー：クウィン・ヴァンツ—建築家、2017 年度日米芸術家交換プログラムフェロー

【アーティスト・トーク】 Work / Not Work—境界をひきなおす MODU スタジオの建築（7月2日）

スピーカー：フー・ホアン&ラチェリー・ローテム

【ダンス・パフォーマンス&トーク】 BUSCARTE—あなたを探して（12月11日）

出演：ナカ・ダンスシアター

（ホセ・ナバレテ [日米芸術家交換プログラムフェロー]、デビー・カジヤマ）
ボイス・プログラミング／加工、作曲：アドリア・オッテ（作曲家、サウンド・デザイナー）

追加音楽：リリアナ・フェリペ

音響操作：宮本貴史

テキスト翻訳：シノブ・カワシマ

手話通訳：菊川れん、江副悟史、高木真知子、角田麻里

[アーティスト・トーク] **For Example** (2019年1月17日)

スピーカー：ジェシー・シュレシンジャー

III. パブリック・プログラム

〈アイハウス・パブリック・プログラム〉

1. アイハウス・レクチャー

本プログラムは、各分野の第一線で活躍中の専門家を講師に迎え、タイムリーな世界情勢や、諸外国との比較から見えてくる日本社会への示唆について政治、経済、外交、文化などの切り口からお話しいただくものである。いずれの講演も基本的には通訳をつけず、英語または日本語で行う。

2018年度は、下記の4回の講演会を開催した（英語3回、日本語1回）。

[デモンストレーション・コンサート] 尺八とフルート／ピッコロの出会い (4月26日)

演奏：トロン・マグナ・ブレッカ／

オスロ・フィルハーモニー管弦楽団フルートおよびピッコロ奏者、東京和楽器音楽院グローバル・アーティスト・イン・レジデンス



野球と外交—日米交流 陰の立役者 (6月20日)

ロバート・ホワイティング／ジャーナリスト



犠牲者意識のナショナリズムか、記憶のための連帯か：東アジアの歴史和解 (7月3日)

スピーカー：イム・ジヒョン 林志弦／西江大学校教授

ディスカッサント：トルステン・ヴェーバー／

ドイツ日本研究所シニアリサーチフェロー

モデレーター：足羽與志子／一橋大学教授



イム・ジヒョン

日本の働き方改革に必要なもの：8つの習慣（2019年1月23日）

ロッシェル・カップ／

ジャパン・インターカルチュラル・コンサルティング社長



2. Architalk ～建築を通して世界を見る

日本近代建築の三大巨匠によって設計された国際文化会館には、創立当初から現在まで日本の建築界を牽引してきた建築家や建築関係者が会員に多数おり、また海外からの建築関係者の来館も多い。これらのネットワークをいかし、国際文化会館の建物の再生が行われてからちょうど10年が経った2016年に、内外で活躍する建築家を招き、建築を通して現代世界について考えるためのプログラムを開始した。本プログラムでは、講演会終了後に懇親会を開催し、参加者が講師と、また、参加者同士が懇談する機会を設けている。

2018年度も前年度に引き続き、小林正美氏（明治大学副学長、国際文化会館理事）、藤村龍至氏（東京藝術大学准教授）をコーディネーターに、下記3回のプログラムを開催した。また、森ビル、清水建設からの協賛を得た。

Freeing Architecture（5月11日）

石上 純也／建築家



アジアから発信する建築（7月24日）

伊東 豊雄／建築家



小さな風景と建築（11月19日）

乾 久美子／建築家



〈日本理解プログラム〉

1. アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター・レクチャー・シリーズ

本シリーズは、日本研究者の研究成果を一般の方々に広く公開し、また、将来の日本研究者とすでに活躍中の日本研究者とのネットワーキングを図ることを目的に、2014年度よりアメリカ・カナダ大学連合日本研究センター（IUC）、国際文化会館、日本財団の共催事業として実施している。IUCは主に北米の大学生・大学院生を対象に中・上級日本語の集中教育を行う日本語教育・研究機関であり、卒業生の多くが日本に関わる幅広い分野で研究者、政府関係者、実業家などとして活躍している。こうした卒業生を講師に迎えて、日本語による講演会を年2回開催している。

2018年度は、下記の2回の講演会を開催した。

私のあゆみ～日本を見つめ続けて（5月10日）

ジェイソン・P・ハイランド／元駐日米国臨時代理大使、現合同会社日本MGMリゾート代表執行役員兼社長



グローバル政治都市ワシントンの中のアジア—その戦略的攻防2018（12月13日）

ケント・カルダー／ジョンス・ホプキンス大学高等国際問題研究大学院副学長、ライシャワー東アジア研究所所長



2. 日文研・アイハウス連携フォーラム

京都を拠点に、日本の文化・歴史を国際的な連携・協力の下で研究するとともに、外国の日本研究者を支援している国際日本文化研究センター（日文研）と国際文化会館の共同プログラムとして2014年度に立ち上げたプログラムである。年4回程度、日文研の専任・客員研究員を講師とした講演会を会館で実施することにより、日本研究の最前線を紹介し、日本理解の促進を目指している。

2018年度は、下記の3回の講演会を開催した。

日系ブラジル社会の集い—カラオケ、映画、俳句（7月27日）

細川周平／日文研教授

コメンテーター：アンジェロ・イシ／武蔵大学教授



細川周平

『現代用語の基礎知識』からみた戦後日本の「宗教史」(12月5日)

鈴木岩弓／日文研客員教授

コメンテーター：磯前順一／日文研教授



鈴木岩弓

明治日本オリンピック事始め～スポーツ文明論試論(2019年2月20日)

牛村 圭／日文研教授

コメンテーター：三谷 博／東京大学名誉教授



牛村 圭

3. Delve into Japanese Culture @ I-House

東京を拠点に、訪日や滞日外国人向けに日本語や日本文化講座を開催している、日本文化を英語で紹介する講座。各回日本文化についてさまざまな切り口(日本庭園、歌舞伎、和食など)からの講座を行うことで、在留外国人や海外から国際文化会館を訪れる方に日本文化に対する理解を深めていただくと同時に、広く日本人にも国際文化会館に足を運んでいただくことを目指す。

2018年度は、下記の1回を開催した。

「ジャパン・ブランド」の裏側を探る ～ハローキティから村上春樹、
こんまりまで(4月24日)

ローランド・ケルツ／作家



〈特別プログラム〉

1. アジア・パシフィック・ヤング・リーダーズ・プログラム (APYLP)

アジア・パシフィック・ヤング・リーダーズ・プログラム (APYLP) は、来る数十年にわたりアジア太平洋地域の平和と繁栄を担っていく次世代のためのコミュニティで、地域内のさまざまなリーダーシップ・プログラムのフェローたちを繋ぎ、継続的な研鑽の機会を提供することで、新たな取り組みを生み出し、こうした次世代コミュニティの活動の拠点となる「場」を提供する。活動の柱として、APYLP 参画団体が中心となって年数回のジョイント・セッションを、日本をはじめアジア太平洋地域各地で開催する。

2018年度は、以下の通り3回のセッションを実施し、各種プログラムの垣根を越えてアジア太平洋地域の次世代リーダー間の対話の場を創出し、知的・文化交流を行った。

アジアのジャーナリズム～第一線で闘うジャーナリストに聞く～ (10月14日)

スピーカー：クンダ・ディクシット／Nepali Times 紙 編集者・発行人

サバ・ナクヴィ／フリージャーナリスト

コン・リッディ／バンコクポスト紙 編集者

司会：水野孝昭／神田外語大学教授

共催：国際交流基金アジアセンター

Next Generation Leadership Shaping the Future of Asia Pacific (10月30日)

司会：キャロライン・ケネディ／元駐日米国大使、アジア・ソサエティ評議員

パネリスト：バニース・アン／ゼロ・ラボ社長

アーネル・カサノバ／AECOM テクノロジーフィリピン代表

土井 香苗／ヒューマン・ライツ・ウォッチ日本代表

ユージン・イー／コルティコ代表取締役

対談：小泉 進次郎／衆議院議員

ジョゼット・シーラン／アジア・ソサエティ理事長

共催：アジア・ソサエティ



キャロライン・ケネディ



バニース・アン



アーネル・カサノバ



土井 香苗



ユージン・イー



小泉 進次郎



ジョゼット・シーラン

再生エネルギーが世界を変える時・・・？ —「不都合な真実」を越えて

(2019年2月2日)

基調講演：ルウェリン・ヒューズ／オーストラリア国立大学准教授

ハンス＝ヨゼフ・フェル／エナジー・ウォッチ・グループ代表

スピーカー：朴 准儀／ジョージ・メイソン大学（韓国）兼任教授

高 偉俊／北九州市立大学教授

葉 文昌／島根大学准教授

佐藤 健太／飯舘村議会議員

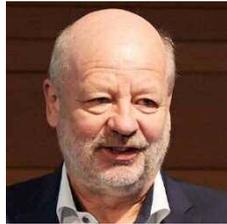
近藤 恵／飯舘電力株式会社専務取締役

司会：ソイヤ・デール／一橋大学専任講師

共催：渥美国際交流財団



ルウェリン・ヒューズ



ハンス＝ヨゼフ・フェル



朴 准儀



高 偉俊



葉 文昌



佐藤 健太



近藤 恵



ソイヤ・デール

2. 誰とも違うふたつの声～バリー・ユアグロー×川上未映子（4月18日）

『一人の男が飛行機から飛び降りる』や『ケータイ・ストーリーズ』、『真夜中のギャングたち』などの奇想天外で白昼夢のような超短編を書き続けている、気鋭の作家バリー・ユアグロー氏が、12年ぶりに来日した際、同じく短編の名手で、「愛の夢とか」や「彼女と彼女の記憶について」、「ウイステリアと三人の女たち」など、何気ない日常がドラマに変わる瞬間をとらえた短編作品を生み出してきた作家の川上未映子氏と、短編について、人生について、創作について対談をした。

スピーカー：バリー・ユアグロー／作家

川上 未映子／作家

司会：柴田 元幸／翻訳家



3. 朝河貫一博士没後 70 年記念シンポジウム (10 月 20 日)

東京専門学校（現在の早稲田大）を首席で卒業後、米国イエール大大学院などで学び、同大で日本人初の教授となった朝河貫一（1873–1948）は、日露戦争後の日本の強権的なアジア外交に警鐘を鳴らし、第二次大戦中には日米開戦を阻止するため大統領書簡を天皇に送ろうと奔走するなど、一貫して平和や協調外交を訴えた。朝河貫一没後 70 周年を迎える 2018 年に下記の通り内外からの専門家を招き、改めてその生涯と功績を振り返り、今後の日本のあるべき姿について検討するシンポジウムを開催した。

総合司会：植木 千可子／早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授
 主催者挨拶：明石 康／国際文化会館理事長



植木 千可子

【「朝河貫一の生き様」について】

登壇者：矢吹 晋／横浜市立大学名誉教授

浜田 宏一／イエール大学名誉教授

ダニエル・ボッツマン／イエール大学教授

山内 晴子／早稲田大学アジア太平洋研究センター、元特別センター員、朝河貫一研究会理事



矢吹 晋



浜田 宏一



ダニエル・ボッツマン



山内 晴子

【基調講演】

高原 明生／東京大学大学院教授

フランシス・マコール・ローゼンブルス／イエール大学教授

加藤 良三／元駐米大使



高原 明生



フランシス・マコール・
ローゼンブルス



加藤 良三

【パネル・ディスカッション】

第一部「今、なぜ朝河貫一か」

司会者：船橋 洋一／アジア・パシフィック・イニシアティブ理事長

ディスカッサント：玄葉 光一郎／衆議院議員、元外務大臣

黒川 清／東京大学名誉教授

田中 明彦／政策研究大学院大学学長

第二部「新しい太平洋時代—次世代に繋ぐ希望」

司会者：渡部 恒雄／笹川平和財団上席研究員

ディスカッサント：阿川 尚之／慶應義塾大学名誉教授

瀬口 清之／キャノングローバル戦略研究所研究主幹

秋田 浩之／日本経済新聞社編集局コメンテーター



船橋 洋一



玄葉 光一郎



黒川 清



田中 明彦



渡部 恒雄



阿川 尚之



瀬口 清之



秋田 浩之

4. Living in North America as a Nuclear Weapon Survivor—被爆者として北米に生きて

(12月4日)

2017年のノーベル平和賞受賞式で、世界に向けて核兵器廃絶を訴えたサーロー節子氏に、対日感情の厳しい時代に被爆者としてアメリカで暮らした経験や、ソーシャルワーカーとしての思い、核兵器廃絶運動などの社会的な活動に取り組むに至った経緯などについてご講演をいただいた。



サーロー節子

スピーカー：サーロー節子

司会：道傳愛子／NHK 国際放送局チーフ・プロデューサー

協力：広島女学院大学、カナダ大使館

IV. 文化交流事業に対する助成支援

1. アジール・フロタン復活事業

戦争難民のための避難所として、世界的に著名な建築家ル・コルビュジエおよび前川國男が改修設計に携わった船「アジール・フロタン Asile Flottant」（浮かぶ避難所）がパリのセヌ川に係留され、日仏双方の建築家などが関わって修復が進められていたが、2018年初頭の増水により水没してしまった。この船は、モダニズム建造物としての価値が極めて高いのみならず、現代史に果たした役割も大きく、日仏交流の一つの象徴ともいえるものであることから、日仏交流 160 周年となる 2018 年に、この歴史的文化的価値のある船を浮上、修復し、展示をめざすこの事業に助成することとし、助成先である一般社団法人日本建築設計学会（本事業の運営実施主体）と契約を締結した。その後、契約にもとづき 6,500 万円を助成し、同学会は船舶の引き揚げに向けて、フランス側との協議や船の潜水調査などを実施した。

V. 広報・情報発信

1. 公益信託長銀国際ライブラリー

2000年7月に設置された「公益信託長銀国際ライブラリー基金」（前身である長銀国際ライブラリー財団の残余財産を基金として事業を継承）による事業である。政治・経済・

社会・文化などの日本人著作を毎年 2 タイトル選定し、英訳・刊行して広く内外に配布し、国際社会の中での日本理解の増進に資することを目的としている。

2018 年度は、2017 年度に刊行した以下の 2 タイトルを内外の大学図書館、研究機関、公共図書館、文化施設など、海外約 2,800 カ所、国内約 700 カ所への無償配布を実施した。この配布をもって、公益信託長銀国際ライブラリー基金事業は終了した。

長銀国際ライブラリー叢書 No. 40

小熊英二著『生きて帰ってきた男：ある日本兵の戦争と戦後』（岩波書店、2015 年刊）

Return from Siberia: A Japanese Life in War and Peace, 1925–2015

by Oguma Eiji

翻訳者：David Noble

長銀国際ライブラリー叢書 No. 10

川勝平太著『日本文明と近代西洋：「鎖国」再考』（日本放送出版協会、1991 年刊）を
全面改編して刊行。

The Lancashire Cotton Industry and Its Rivals

by Heita Kawakatsu

翻訳兼編集者：Jean Connell Hoff

2. アイハウス・プレス

2006 年より、出版メディアを通して、会館のプログラム活動の成果を広く一般に発信するとともに、海外における日本理解の増進を目的として、日本人による名著を英訳・刊行して発信する活動を基本として実施している。

2018 年度は、次の 1 冊の電子書籍を出版し、内外の出版マーケットで有償配布を実施した。

国際文化会館 新渡戸国際塾編

『これからの世界を考える人へ』（新渡戸国際塾講義録 6）



3. 定期・不定期刊行物

2018年度は、年4回発行の広報誌『I-House Quarterly』（A4版／16ページ、和英併記）を18～21号まで発行し、各界で活躍する方へのインタビューや対談記事、実施済み講演のレポート、今後のプログラム、施設イベントなどを紹介した。会館を知らない層、とり

わけ国際問題や文化交流に関心のある若い世代にリーチすべく、各国際機関やメディアのほか、大学、書店などでも配布した。通常の発行部数は6,500部。なお、これまで会員向けに『国際文化会館会報』および『*IHJ Bulletin*』で掲載してきた講演録は、会員専用のウェブサイトへ移行し、継続的に掲載している。

また、各年度の事業内容をまとめた年次報告書(『国際文化会館の歩み』、*Annual Report*)を会員および関係機関に配布した。

2018年度の刊行物は、以下の通りである。

英文年次報告書 *Annual Report 63* (2017年度事業報告、9月発行)

和文年次報告書 『国際文化会館の歩み 63』(2017年度事業報告、9月発行)

I-House Quarterly



➤ No. 18, Summer 2018 (6月発行)

- ・インタビュー：リチャード・ロイド・パリー (『The Times』紙アジア編集長)
- ・特別レポート：Asia Pacific Young Leaders Program が始動 ほか



➤ No. 19, Fall 2018 (9月発行)

- ・インタビュー：神武直彦 (慶應義塾大学大学院教授)
- ・エッセー：バリー・ユアグロー (作家) ほか



➤ No. 20, Winter 2019 (12月発行)

- ・インタビュー：栗栖良依 (NPO 法人スローレーベル代表)
- ・エッセー：ピーター・グリーンリ (ボストン日本協会名誉会長) ほか



➤ No. 21, Spring 2019 (2019年3月発行)

- ・インタビュー：河野英一（タイポグラファー）
- ・エッセー：道傳愛子（NHK 国際放送局シニア・ディレクター）ほか

4. Web、SNSなどによる広報

上記出版物のほか、ウェブサイト、Facebook、Twitter、YouTube、毎月のメールマガジン配信などを通じて広報活動を行っている。

2018年度は、ウェブサイトをスマートフォンにも対応させ、利便性を高めるとともにタイムリーな情報発信を行った。また、他の団体との協力を継続し、公開プログラムの情報を相互のメールマガジンなどから発信した。

VI. 調査研究

1. 外交問題夕食懇談会

外交問題に関心の深い方々を対象に、ゲストスピーカーを囲んでインフォーマルな雰囲気の中で懇談する機会を提供するものである。調査研究プロジェクトとして行っており、得られた成果を他のプログラムの参考にするため、参加者は、学者・研究者、外交実務経験者、NPO、シンクタンク、メディア、経済人など、職種や専門を超えて、異なる分野から少人数に限定している。使用言語は日本語または英語。

2018年度は、以下の懇談会を開催した。

激動する日本の原子力平和利用（5月17日）

阿部信泰／元内閣府原子力委員会委員



The United Nations and a World in Crisis: Challenges and Opportunities (7月2日)

セバスティアン・フォン・アインジューデル／
国連大学政策研究センター所長



米国と反グローバリズム (9月5日)

佐々江賢一郎／日本国際問題研究所理事長兼所長



北東アジア外交の中での朝鮮問題—過去と展望 (2019年2月26日)

イ・スフン 李洙勲／駐日韓国大使

コメンテーター：小此木 政夫／慶應義塾大学名誉教授



李洙勲

Ⅶ. 図書室

1. 通常業務

2018年度の図書室サービスにおいては、前年度と比較して来館者がほぼ同数であり、貸出・レファレンスは微減した。

| | 2017年度 | 2018年度 |
|----------|----------|----------|
| 蔵書 | | |
| 図書 | 27,360 冊 | 27,675 冊 |
| 雑誌タイトル | 389 種 | 394 種 |
| 受入図書 | 462 冊 | 318 冊 |
| 購入 | 116 | 117 |
| 寄贈 | 346 | 201 |
| 受入雑誌 | 2,447 冊 | 2,483 冊 |
| 除籍図書 | 572 冊 | 3 冊 |
| 開室日数 | 292 日 | 291 日 |
| 来館者 | 10,460 人 | 10,432 人 |
| 日本人 | 6,829 | 7,035 |
| 外国人 | 3,631 | 3,397 |
| 貸出 | 1,663 冊 | 1,612 冊 |
| 図書館間貸出 | 144 件 | 126 件 |
| 依頼 | 87 | 66 |
| 受付 | 57 | 60 |
| レファレンス | 1,066 件 | 989 件 |
| 来館 | 652 | 591 |
| 電話 | 51 | 62 |
| 手紙・ファックス | 1 | 5 |
| 電子メール | 362 | 331 |
| パソコン利用者 | 606 人 | 421 人 |
| 図書会員 | 124 人 | 131 人 |
| 入会 | 22 | 30 |
| 退会 | 29 | 23 |

(2019年3月31日現在)

2. アーカイブ基盤整備事業

会館に保管されている写真、事務文書、各種の記録など、戦後の文化交流史を語る一次資料の活用を可能にし、総合的な基礎目録をインターネット上で公開することを目的として、3カ年計画（2017～2019年度）で本事業を進めている。2018年度は、事業に関する討議・助言を行うアーカイブ基盤整備委員会の指導のもと、概要目録の追加作成や資料（特に劣化の恐れのある古い音声や映像）のデジタル化などを実施した。

3. その他

(a) The James C. Abegglen Memorial Collection at the International House of Japan Library 刊行事業（協賛：ボストン・コンサルティング・グループ、協力：株式会社日本経済新聞出版社）

2008年に図書室に寄贈されたジェームズ・C・アベグレン氏の蔵書の目録（新装版）を刊行し、記念セッションおよびレセプションを以下のとおり開催した。

| 開催日 | タイトル | パネリストなど | 参加者 |
|------|---|--|------|
| 6月7日 | The James C. Abegglen Memorial Collection at the International House of Japan Library 10周年記念セッション | ケント・カルダー（ジョンズ・ホプキンス大学高等国際問題研究大学院（SAIS）ライシャワー東アジア研究所 所長） 津坂美樹（ボストン・コンサルティング・グループ（BCG）シニア・パートナー、マネージングディレクター） 堀 義人（グロービス経営大学院大学学長、グロービス・キャピタル・パートナーズ代表パートナー） | 147名 |

(b) Reading about Japan at I-House Library

図書室蔵書の朗読と解説を行い参加者が自由にスピーカーと対話し、交流する機会を作ることを目指してリーディングセッションを開催している。各回多くの参加があり、図書室広報の役目を果たしている。

2018年度は、以下のセッションを開催した。

| 開催日 | タイトル | 朗読者など | 参加者 |
|--------|--|------------------|-----|
| 11月29日 | Craig Mod—The Walk and Talk: <i>Koya Bound</i> and Walk Design | クレイグ・モド (作家・写真家) | 96名 |

(c) 書籍小展示 (共催: 日仏会館図書室、ドイツ - 日本研究所図書室)

本小展示は日仏会館図書室、ドイツ - 日本研究所図書室と共催で行ったもので、同じテーマについて会館では英語の資料、日仏会館ではフランス語の資料、ドイツ - 日本研究所図書室ではドイツ語の資料を展示した。

| 開催日 | タイトル | 展示資料 |
|-----------------------------|-------|--|
| 10月2日 ～ 10月31日 | 芭蕉と俳句 | 芭蕉と俳句に関する英語資料 (会館) 芭蕉と俳句に関する仏語資料 (日仏会館) 芭蕉と俳句に関するドイツ語資料 (ドイツ - 日本研究所) |
| 2019年 3月1日 ～ 3月29日 | 能・狂言 | 能・狂言に関する英語資料 (会館) 能・狂言に関する仏語資料 (日仏会館) 能・狂言に関するドイツ語資料 (ドイツ - 日本研究所) |



小展示「芭蕉と俳句」



小展示「能と狂言」

(d) 追悼書籍小展示

著名な日本文学者・翻訳家であった、コロンビア大学名誉教授のドナルド・キーン氏の追悼小展示を以下の通り実施した。

| 開催日 | タイトル | 展示資料 |
|-----------------------------|---------------------|-------------|
| 2019年 3月1日 ～ 4月19日 | ドナルド・キーン教授 追悼小展示 | ドナルド・キーン氏著作 |

VIII. 協力・後援事業

2018年度、国際文化会館は以下の事業への協力・後援を行った。

【協力】

Memo Akten 氏来日記念ディスカッション会「fundamental frequencies—生命・人工知能・自律感性の先へ—」（4月28日）

主催：一般財団法人アキシオン

会場：国際文化会館

日米友好基金 助成金説明会（5月24日）

主催：日米友好基金

会場：国際文化会館

森美術館「カタストロフと美術のちから展」プレ・ディスカッション・シリーズ 第5回
「美術家アクティヴィズムか」（7月1日）

主催：森美術館

会場：国際文化会館

Innovative City Forum 2018「都市とライフスタイルの未来を描く」

（10月18日～20日）

主催：アカデミーヒルズ、一般財団法人森記念財団都市戦略研究所、森美術館

会場：六本木アカデミーヒルズ

イースト・ウェストダイアローグ 榎文彦×ピーター・グリーリ (11月14日)

主催：アジアン・カルチュラル・カウンシル

会場：国際文化会館

公開シンポジウム「急速に変化する世界とリベラルアーツ教育」

(2019年3月22日)

主催：公益財団法人グルー・バンクロフト基金

会場：国際文化会館

【後援】

JEF-KRA グローバルリスク・シンポジウム 2018 (9月20日)

主催：一般財団法人国際経済交流財団

会場：国際文化会館

VII. 国際文化会館の運営

2018年度は、研究個室（宿泊施設／全44室）において、14,885名の宿泊客を迎えた。このうち、外国人の利用が65.7%と、国内外の国際交流関係者、学者、芸術家、文化、知識人の方々が集う施設としての特色を表している。

【会員向け宿泊キャンペーン（全会員対象）】

- 夏季宿泊優待券（有効期間：7月～8月）
- 冬季宿泊優待券（有効期間：12月～2019年2月）

東館および別館に位置する会合施設（講堂／セミナー室）での利用者は30,758名、東館の会合施設（岩崎小彌太記念ホール／樺山・松本ルーム）では、31,067名に利用された。

【宴会キャンペーン】

- サマー・パーティープラン（2018年7月1日～9月30日）
- ウィンター・パーティープラン（2018年12月1日～2019年2月28日）
- スプリング・パーティープラン（2019年3月1日～3月31日）

料飲施設のティー・ラウンジ『ザ・ガーデン』は、65,758名に利用された。また、主食堂のレストラン『SAKURA』は、16,918名の利用があった。

【ティー・ラウンジ『ザ・ガーデン』キャンペーン・イベント】

- ライスヌードル（フォー）フェア（2018年5月1日～6月30日）
- サマースペシャルメニュー（2018年7月1日～8月31日）
- 秋のおすすめパスタ（2018年9月1日～10月31日）
- シェフおすすめタイフード（2018年11月1日～12月30日）
- ローストチキンのクリスマスセット（2018年12月21日～12月25日）
- 年越し蕎麦（2018年12月31日）
- お正月スペシャルランチ（2019年1月1日～3日）
- お正月スペシャルディナー（2019年1月1日～3日）
- 冬のあったかセット（2019年1月8日～2月28日）
- お花見ちらし（2019年3月15日～4月7日）
- 夜桜ステーキセット（2019年3月15日～4月7日）

【レストラン『SAKURA』キャンペーン・イベント】

- クラシカルフレンチメニュー (2018年7月1日～8月31日)
- 秋を楽しむフレンチディナー (2018年10月1日～11月30日)
- クリスマススペシャル (2018年12月21日～12月25日)
- 和洋おせち料理 (2019年1月1日～3日)
- 新春フレンチコース (2019年1月1日～3日)
- お花見ランチコース (2019年3月15日～4月7日)
- 夜桜フレンチコース (2019年3月15日～4月7日)

以上の結果、別館を含む会合施設および料飲施設の総利用客数は、159,434名となった。また会員懇親の催しとして、以下を開催した。

- 観桜会 (4月5日、4月6日 参加者178名)
- ガーデン・ビアパーティー (7月27日 参加者183名)
- ワインパーティー (11月15日 参加者125名)
- 国際文化会館会員晩餐会 特別ゲスト：山下泰裕氏
(12月6日 参加者69名)
- クリスマス晩餐会 (12月23日～25日 参加者255名)

いずれの日も会員の皆様およびゲストの方々が集い、交歓のひとつときをお楽しみいただいた。

サービス活動実績

研究個室

自 2018年 4月 1日

至 2019年 3月 31日

| | 2017年度 | 2018年度 | 増減 | 前年比 |
|-----------|--------------|--------------|------------|--------|
| 宿 泊 者 数 | 15,193 | 14,933 | -260 | 98.3% |
| 一日平均宿泊者数 | 41.6 | 40.9 | -0.7 | 98.3% |
| 外 国 人 比 率 | 64.8% | 65.7% | 0.9% | 101.4% |
| 稼 働 率 | 78.1% | 76.0% | -2.1% | 97.3% |
| 収 入 額 | ¥144,657,990 | ¥147,798,403 | ¥3,140,413 | 102.2% |
| 一日平均収入額 | ¥396,323 | ¥404,927 | ¥8,604 | 102.2% |

会議室・婚礼関連・料飲施設

自 2018年 4月 1日

至 2019年 3月 31日

| | | 2017年度 | 2018年度 | 増減 | 前年比 |
|-------|-----|--------------|--------------|--------------|--------|
| セミナー室 | 収入額 | ¥72,783,452 | ¥74,427,047 | ¥1,643,595 | 102.3% |
| | 客数 | 34,430 | 30,758 | -3,672 | 89.3% |
| | 客単価 | ¥2,114 | ¥2,420 | ¥306 | 114.5% |
| 会議室 | 収入額 | ¥221,074,728 | ¥255,320,609 | ¥34,245,881 | 115.5% |
| | 客数 | 28,589 | 31,067 | 2,478 | 108.7% |
| | 客単価 | ¥7,733 | ¥8,218 | ¥486 | 106.3% |
| 婚礼手数料 | 収入額 | ¥121,794,231 | ¥99,440,593 | ¥-22,353,638 | 81.6% |
| | 客数 | 8,838 | 7,294 | -1,544 | 82.5% |
| | 客単価 | ¥13,781 | ¥13,633 | ¥-148 | 98.9% |
| レストラン | 収入額 | ¥103,247,442 | ¥104,743,799 | ¥1,496,357 | 101.4% |
| | 客数 | 16,262 | 16,918 | 656 | 104.0% |
| | 客単価 | ¥6,349 | ¥6,191 | ¥-158 | 97.5% |
| ラウンジ | 収入額 | ¥118,579,998 | ¥119,644,709 | ¥1,064,711 | 100.9% |
| | 客数 | 65,862 | 65,758 | -104 | 99.8% |
| | 客単価 | ¥1,800 | ¥1,819 | ¥19 | 101.1% |
| 合計 | 収入額 | ¥637,479,851 | ¥653,576,757 | ¥16,096,906 | 102.5% |
| | 客数 | 153,981 | 151,795 | -2,186 | 98.6% |
| | 客単価 | ¥4,140 | ¥4,306 | ¥166 | 104.0% |
| 一日平均 | 収入額 | ¥1,746,520 | ¥1,790,621 | ¥44,101 | 102.5% |
| | 客数 | 422 | 416 | -6 | 98.6% |

付 属 明 細 書

2018年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

2019年5月

公益財団法人 国際文化会館